

浴風会病院 だより

No 10

浴風会病院 広報誌



社会福祉法人浴風会は令和7年1月
創立100周年を迎えました。

目次

病院長より新年の挨拶	...	2
薬剤科のご紹介	...	3
浴風会病院トピックス	...	4
初期集中支援チームの活動について		

基本理念

- ・理想の高齢者医療をめざして
- ・患者さんに信頼され、喜ばれる病院
- ・職員が働きやすく、働きがいのある病院
- ・地域社会に貢献できる病院

運営方針

- ・患者さん本位の医療の推進
- ・高齢者専門医療の推進
- ・地域の医療・介護サービス提供機関との連携推進
- ・人材の育成
- ・安定した経営基盤の確立



2026年1月号
季刊誌

病院長より新年のご挨拶



『信頼されるコミュニティホスピタルとなるために』

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、日頃より当院を支えてくださっている地域の皆様、関係機関の皆様に、まずは心より感謝申し上げます。皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げます。

当院は、地域の中で本当に信頼されるコミュニティホスピタルとなるべく、初診から看取りまでを継ぎ目なく診療できる人材や施設を有しているという当法人の先輩たちが築き上げてきた財産を用いながら、日々の診療にあたってまいりました。その道半ばではありますが、今後も在宅医療の拡大、認知症診療の充実、人生の最終段階における医療の充実は当院の果たすべき使命と考えます。並行して地域の医療・介護・福祉施設との連携をより強固にし、地域内でも切れ目のない医療連携体制の一翼を担えるようにしてまいります。



医療の質と医療安全は表裏一体と考えます。日々進歩する医療に対応するため、常に学び、研鑽を積む必要があります。そして、医療の安全に終わりはありません。リスクを予見し、未然に防ぐ仕組みを絶えず組織全体で作り上げ、患者さんと家族と「この病院にきてよかった」と心から思っただけの医療を提供し続けます。

未来を担うべく優秀な人材の確保と育成は、当院の存続と発展にとって大きな課題といえます。職員一人ひとりが健康で、自らの専門性を高められる環境こそが、より良い医療を生み出すことにつながると考えます。デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務効率化を図ることで、その目的を果たせるようにしてまいります。



最後に、病院の成長は、職員一人ひとりの努力とチームワークにかかっています。本年も我々はプロフェッショナルとしての自覚と誇りを持ち、患者さんと地域のために、心をひとつにして邁進する所存です。

皆様にとってこの一年が実り多く、健やかな年となりますよう、改めて心よりお祈り申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

令和8年1月

浴風会病院 院長 雨宮志門

浴風会病院の薬剤科

浴風会病院の薬剤科をご紹介します。

浴風会病院の薬剤科は、地下1階にあり、主に入院患者さんのお薬を調剤しています。お薬の効果や副作用の確認、退院時におけるご本人やご家族へのお薬の説明や使い方の指導も行っています。

「薬剤科の業務」

● 入院時の薬剤管理

入院時に、服薬中のお薬をお持ちいただき、薬品名・服薬量・回数を確認して主治医に報告します。主治医の指示に基づき、服薬の継続や中止を決定し、調剤します。

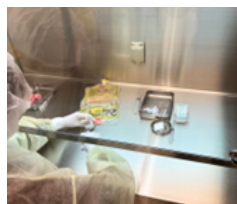
- ・内服薬：処方入力後に1回分ごとに分包、服用しやすい形で提供
 - ・注射薬：病棟ごとの注射カートに1日分ずつセットしてお届け
- 入院中も安全で適切な服薬をサポートしています。

● 服薬指導

当院の患者さんはご高齢の方が多く一人ひとりに合わせた服薬指導を行っています。

- ・お薬の服用についてご本人にお話を聞いたり、入院時にお持ちいただいたお薬の残数の偏りなどを参考に、服薬状況を確認します。
- ・お薬の効果や副作用の確認には、ご本人からのお話と共に病棟の担当看護師やリハビリ職員への情報収集も行います。

現状にあわせた服薬方法を考え、主治医に調整を提案することもあります。入院中のお薬や服薬方法の変更などは、ご本人とご家族に退院時服薬指導を行います。



無菌調整が必要な注射薬はクリーンベンチを使って調整をします。



「ポリファーマシーへの取り組み」

当院の入院患者さんの平均年齢は87.4歳と高齢なため、内科、整形外科、泌尿器科など複数の診療科を受診し、薬剤数が多くなりがちです。また、加齢による生理機能の低下により、多剤併用による有害事象（ポリファーマシー）が起こりやすくなります。

当院薬剤科では、入院時の検査結果等をもとに薬剤について検討し、主治医に情報提供を行い、入院中に薬剤調整を行うこともあります。調整した内容は退院時に薬剤管理サマリーを作成し、かかりつけ薬局や退院先の施設、転院先の病院などに情報提供を行います。

他にも薬剤師は、医師、看護師、臨床検査技師、事務と共に組織横断的に院内感染防止に取り組む院内感染制御チーム（ICT）や抗菌薬適正治療チーム（AST）の活動にも参加しています。

また、医師、看護師、臨床検査技師、言語聴覚士、管理栄養士など多職種と協力して病気治療や日常動作改善のための栄養管理サポートチーム（NST）や嚥下機能が低下した患者さんの安全な栄養管理を行う摂食嚥下支援チーム（SST）の活動も行っています。



NST回診の様子

薬剤師より

- ★ お薬手帳は服薬中のお薬の情報を知るために大切なものです。ご受診の際は、忘れずにお持ちください。
- ★ 入院中のお薬についてのお問い合わせがありましたら、主治医や看護師を通して薬剤師にご相談ください。

浴風会病院 認知症初期集中支援チームの紹介

皆さんは、認知症初期集中支援事業をご存知でしょうか。

これは、「認知症になってもご本人の意思が尊重され、できるだけ住み慣れた地域でよい環境の暮らしが続けられるように、認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する」という理念の下で行われている国の認知症施策のひとつで、市区町村に「認知症初期集中支援チーム」を配置することになっています。

認知症初期集中支援チームの動きは、認知症でお困りの方への支援を地域包括支援センター（杉並区はケア24）が区の認知症コーディネーターに相談し、コーディネーターが認知症初期集中支援チームに支援を依頼して活動が始まります。



浴風会病院は、杉並区より委託を受け、平成29年から認知症初期集中支援チームの活動を開始しています。浴風会病院チームは、認知症専門医、薬剤師、看護師、作業療法士、臨床心理士、精神保健福祉士と病院ならではの多様な職種構成となっており、幅広い視点で認知症の方の支援を行っています。

具体的には、「独り暮らしで生活が心配」「（医療機関へ）受診ができない」「介護認定は受けているけれどもサービスが使いづらい」などのお困り事に対して、ご本人やご家族、また地域の支援者の方と共に考えてきます。そして、その活動の特徴のひとつにアウトリーチ（訪問）があります。病院の外来診療とは違い積極的に地域に出向き、チーム員がそれぞれ専門性の高い詳細なアセスメントを行って支援の糸口を探っていきます。

認知症の方のお困り事は簡単に解決できるものではありませんが、地域の皆さんと協力・連携しながら、認知症の方が可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できるよう体制作りを行ってまいりますので、認知症初期集中支援チームの活動にご理解とご協力を賜りますよう、これからもよろしくお願いいたします。

無料送迎バスのご案内

社会福祉法人浴風会は、高井戸駅からの無料巡回バスを運行しています(平日のみ・土日祝は運休)
都営高井戸西住宅を経由し、所要時間は約10分です。降車場所は病院前です。



浴風会巡回バス時刻表

発車時刻表（平日のみ・土日祝は運休）									
	8時	9時	10時	11時	12時	1時	2時	3時	4時
病院前	30	0	30	0	30	0	30	0	30
浴風園前	33	3	33	3	33	3	33	3	33
15号棟前	35	5	35	5	35	5	35	5	35
12号棟前	37	7	37	7	37	7	37	7	37
高井戸駅前	40	10	40	10	40	10	40	10	40
12号棟前	42	12	42	12	42	12	42	12	42
15号棟前	44	14	44	14	44	14	44	14	44
病院前（浴風園行き）	46	16	46	16	46	16	46	16	46
浴風園前終着	48	18	48	18	48	18	48	18	48

社会福祉法人浴風会 浴風会病院

電話番号：03-3332-6511（代）FAX：03-3332-7671

ホームページ：<https://www.yokufu-hp.jp/>

住所：東京都杉並区高井戸西1-12-1



外来担当表
（2025年10月時点）



浴風会病院
ホームページ

